

## 第3回 福岡市立新病院に関する小児2次医療連絡協議会 議事要旨

---

■日 時	平成22年9月3日(金) 16時から
■場 所	独立行政法人国立病院機構九州医療センター
■出席委員	独立行政法人国立病院機構九州医療センター院長 村中委員 国家公務員共済組合連合会浜の町病院副院長 一宮委員(安井委員代理) 地方独立行政法人福岡市立病院機構福岡市立こども病院・感染症センター院長 福重委員 福岡市医師会会長 江頭委員

---

- 座長の安井委員が欠席のため、本日の座長は村中委員にお願いすることとした。

### 議題1 規約の改正について

- 本協議会の規約第4条の組織について一部変更することを了承した。

### 議題2 福岡市小児医療連絡会議の開催状況について

- 福岡市小児医療連絡会議の開催状況について事務局より説明を行った。  
○ 資料2の「2(3)参加医療機関 イ情報を閲覧できる医療機関」の福岡地区小児科医会会員のあとに、「小児医療を担い閲覧を希望する福岡市医師会員」を加えることとした。

#### <議題2に関する主な意見>

- ・ 急患センターでも情報を閲覧できるようになっているのでいい。
- ・ (媒体について)セキュリティの問題はあるが、既存のシステムを使う方が使い手がいし、安上がりで簡単である。
- ・ 小児科医院の開設や閉院などメンバーの異動があるので、市が中心となり、医師会と福岡地区小児科医会で情報を共有し、確認し合っていく作業が必要である。
- ・ 福岡地区小児科医会は小児科(を標榜する開業医)のみで、「内科・小児科」(を標榜する開業医)は入っていないが、小児科不足の地域では、内科の先生が小児科の入口のところをさばき、現実に回っていている。
- ・ 情報をよくばらず、空床状況を知るという主たる目的をはっきりさせて簡便にした方がいい。

### 議題3 本市西部地区における小児2次医療提供体制について

- 現状を踏まえた本市西部地区における小児2次医療提供体制についての考察及び今後の進め方(案)について、事務局より説明を行った。  
○ こども病院が入院患者の一部受け入れ制限を行った際、大きな問題なく対応できたのは、現場の尽力による部分が大きいことから、資料3の2(4)の「質・量ともに充実してきている」というところに、「小児科勤務医の献身的な取り組みにより」という表現を盛り込むなど、修正を行うこととした。

### ＜議題3に関する主な意見＞

- ・ 昨年の新型インフルエンザ流行の際に凶らずも（こども病院移転後の）検証ができた。
- ・ 数少ない小児科勤務医でこども病院の代替機能を果たしていただいた他施設については、評価し謝意を表すべき状況である。
- ・ 人のネットワークや派遣システムを作るなど、医師会だけでなく大学を巻き込んで、小児医療全体の構築までできれば理想的。
- ・ 3次になったときに引き取ってくれるところが少ないという問題がある。患者を引き受けたら3次の状態であったというときに、数少ない小児科医で呼吸管理は無理である。3次の充実、病床の確保をきちんとしてほしい。
- ・ 3次の対応は新こども病院や両大学病院にお願いし、2次のところまではできるだけ周辺病院で対応、急患センターで1次～2次を対応という形にする必要がある。
- ・ 地域ニーズや医療の中で絶対に小児科医の確保が必要という話になれば、全体の施設の中で体制を整える考えはある。
- ・ 今のこども病院には脳外科がなく、ICUも不足しているが、新こども病院では、3次を躊躇なく引き取れるような状況にしたい。
- ・ こども病院がすばらしい3次医療を展開するためには、2次医療のところまでの前さばきが必要である。
- ・ どの科も地域の中での戦略的な人員配置が必要である。病院の役割分担をし、そのための人員配置をするというような哲学がないといけない。地域の中で小児医療の基幹施設を作るとか、医師の総数は決まっているので、そういった話し合いができる場があればいい。

### 議題4 その他

- 次回の協議会は何らかの動きがあったときに開催することと、今後はある程度定期的に開催していくことを確認した。